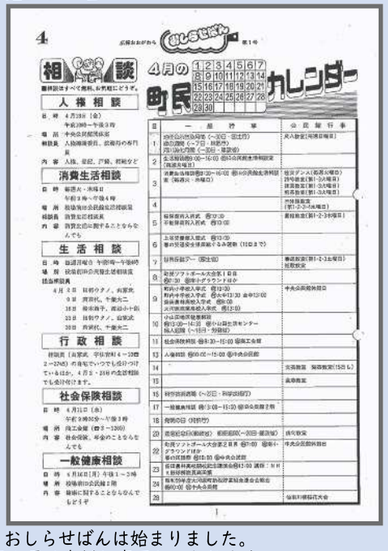
広報おおがわら おしらせばんが12月1日号をもって 1000号 を迎えました！

今回は過去に掲載した
おしらせばんをご紹介します

おしらせばん　第１号



1984年（昭和59年）から広報おおがわら おしらせばんは始まりました。
上記に掲載しているものが当時発行された第１号（表紙と裏面）になります。

過去にはこんな記事も、、、

新型コロナウイルスが流行していた時期には特別号を発行しました

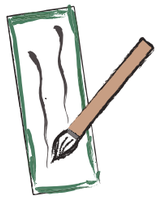
桜まつりを掲載

平成になって初めて
のおしらせばん

新型コロナウイルス
感染症対応特別号

企画デザインから総合印刷まで
株式会社津田印刷
印刷業務全般
●広報・会報 ●パンフレット ●チラシ・ポスター ●名刺・はがき・封筒
●記念誌・個人誌 ●事務用印刷（各種帳票） ●のぼり・Tシャツ・クリアファイル等のグッズ
●横断幕 ●ドローン空撮（画像・動画） etc
大河原町字東原町13-5
0120 FreeDial 0120-52-5550
HP QRコード

わがまち文芸道場



お二人のノーベル賞受賞大拍手世のうつぷんの晴れるが如し　加藤　倫子

軒下に干し柿たわわの幼き日ふる里は今ダム湖に沈む　里山　みずき

ひとときは家にこもりし肩の怪我いまは大きく両手が開く　髙城　和子

青空に庭旋回す秋燕また来年も来たれと願う　小熊　松子

あかあかと葉見ず花見ず彼岸花苅田のあぜに炎立つごと　菅野　美榮子

留守番か半日ひとりの柴犬よ窓辺で外見る秋の夕暮れ　渡辺　光子

歌友と歩いて気づくあけびの実七個の中の二個は食べごろ　小原　チハル

夕日さすもみぢの木股に腰かける抱かるるやうに小一の児は　小成田紀代子

緑濃きゲレンデ見上げ五十の娘（こ）スキーバイトの思い出語る　菅井　加寿子

秋深く木々が色づき鮮やかな風情をかもし心安らぐ　佐々木　貴枝

【大河原短歌会】

まちの本棚
～駅前図書館今月の新刊～

問合先　大河原町駅前図書館　TEL 0224-51-3330
開館時間　平日 10:00～19:00　FAX 0224-51-3331
土日祝 10:00～18:00

一般

『親子で食べたい強いからだを作る！ 重ねて煮るだけスープ』
田島 恵：著【世界文化社】

重ね煮で作るスープは、食べやすく、消化しやすい。簡単に作れて、からだがホッとする。大人と子どもが同じものを一緒に食べられて、家族みんなのからだを健やかに調える重ね煮スープのレシピを紹介する。

小説

『山本周五郎戦場の武士たち』
山本 周五郎：著【あけび書房】

山本周五郎がアジア太平洋戦争末期の1943～45年に発表した作品のうち、戦場を舞台にしたもの、武士のありようや生と死をテーマにしたものを選んだ短編集。「殉死」「夏草戦記」「さるすべり」など全12作を収録する。

児童

『読書会を魔女といっしょにやってみたら』
濱野 京子：作　米田 絵理：絵【あかね書房】

友だちと「読書会」を始めた小学６年生の稀桜。書店も図書館もない町に「貸し出しもできる一箱書店」を作りたいと、自称「魔女」の愛沙さんに相談します。すると、大人たちの前でプレゼンをすることになって…!?

絵本

『かみなりせんにょといなづませんにょ』
ハン ガン：ぶん　チン テラム：え
さいとう まりこ：やく【小峰書店】

とても高いところにあるお空の国。雲をつくるしごとに退屈したふたりのおちび仙女は、じゃまな羽衣を脱ぎすてて、下の世界を見物しに行こうとしますが…。韓国で初めてノーベル賞を受賞した小説家が子どものために書いた絵本。